



浦島太郎

浦島太郎

太郎は、ある日、亀を助けま  
おれに、亀は太郎を海の中の皇  
城に連れていきます。太郎は、  
ここで楽しい時間を過ごしま  
……。  
とても有名な昔話です。

にほんご よむよむ文庫



これは、日本語を勉強している人のための「読みもの」シリーズです。4レベルに分かれていて、昔話、創作、名作、伝記などいろいろな話があります。レベルごとに言葉や文法が制限されていてみやすく書かれています。漢字には全てひらがなが付いています。辞書を引かないでどんどん読んでみましょう。

レベル	クラス	語彙数	文字数/1話
1	初級前半	350	400~1500
2	初級後半	500	1500~2500
3	初中級	800	2500~5000
4	中級	1300	5000~10000

「浦島太郎」は、日本の古い話です。

ここは、海の近くです。

太郎とお母さんのうちがあります。

太郎は、毎日、海へ行きます。

そして、魚をとります。





子どもたちは、亀を太郎にあげました。

「本当？ いいよ」

私に、この亀をください」

「お金をあげましょう。」

太郎は、子どもたちに言いました。

亀は泣きました。

「痛い！ 痛い！」

子どもたちは、棒で亀をたたきます。



今日も、太郎は海へ行きました。

海に、子どもがたくさんいます。

子どもたちが、

棒で何かをたたきました。

亀です。



「あめがとこざい、どうもありがとこざい  
 ました。海の中に楽しいところか  
 あります。私と一緒に行きましよう。  
 さあ、どうぞ」  
 太郎は、亀に乗りましました。  
 7

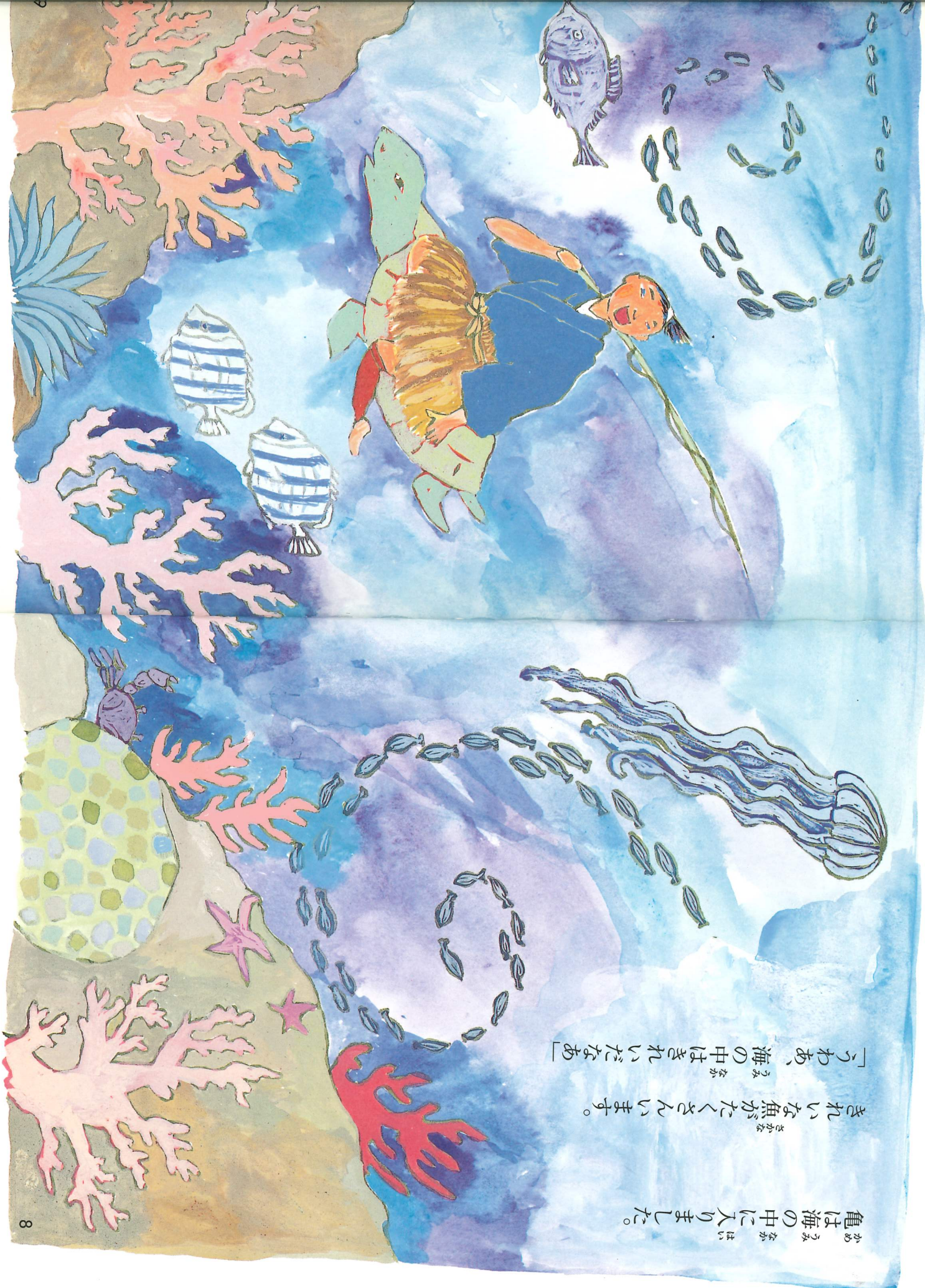
それから一週間。  
 太郎は、今日も海へ行きます。  
 いい天気です。  
 太郎は、今日も魚をとります。

そこに亀が来ました。

亀が言いました。

「どうもありがとこざいましました」  
 亀は言いました。  
 そして、海に帰りました。  
 6





かめは海の中に入りました。

きれいな魚がたくさんいます。

「うわあ、海の中はきれいだなあ」

亀と太郎は、大きい城の前に乗りました。

「ここは竜宮城ですよ」

亀が言いました。

竜宮城はともきれいです。

太郎は、

亀と一緒に竜宮城の中へ

入りました。

そこには、

とてもきれいな女の人がいきました。

太郎は、亀に聞きました。

「あのきれいな女の方は、誰ですか」

「乙姫さまですよ」

亀は答えました。

「あなたが太郎さんですね。」

さあ、こちらへどうぞ」

乙姫さまは太郎に言いました。



竜宮城には、おいしい食べ物やお酒がたくさんあります。

太郎は、毎日、乙姫さまと遊びました。

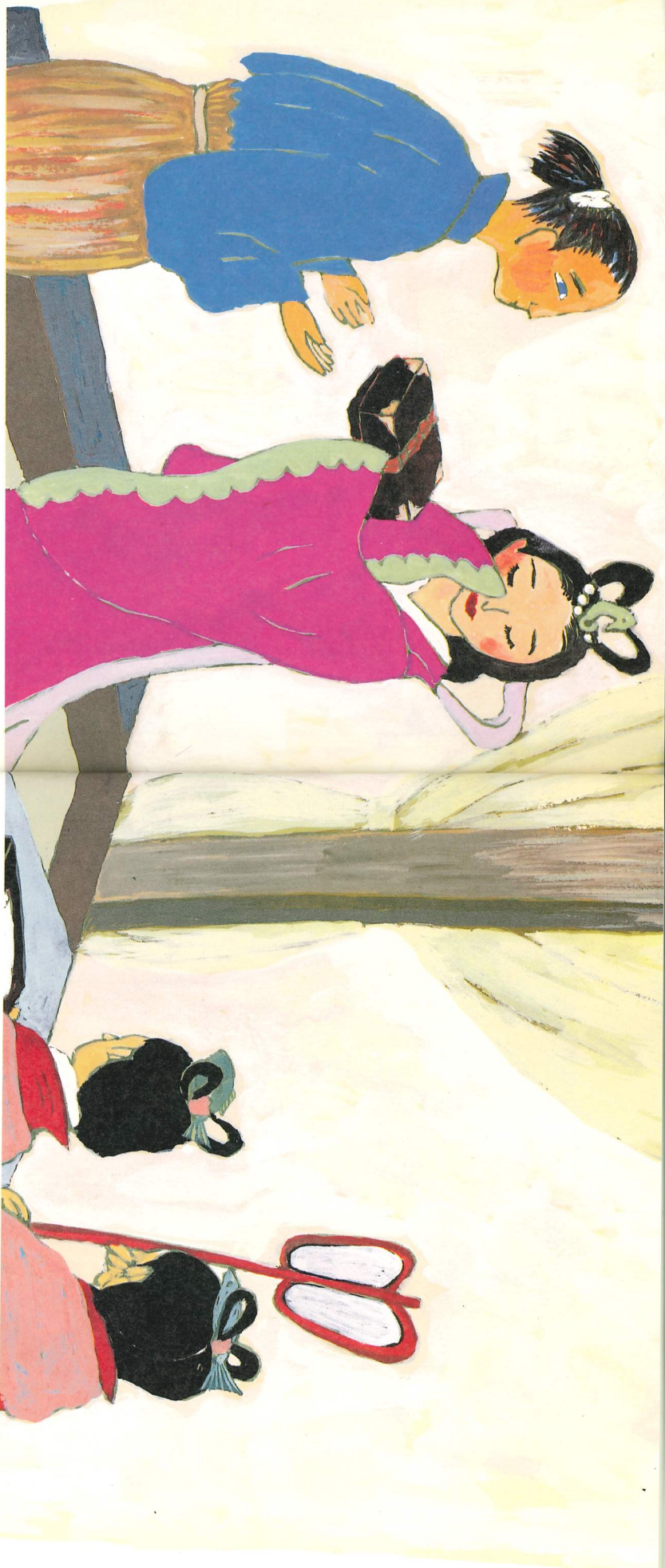
そして、おいしい食べ物をたくさん食べました。

おいしいお酒もたくさん飲みました。

毎日、とても楽しいです。

一週間、二週間……、一か月、二か月……、一年、二年……。





ある日、乙姫さまが言いました。

「太郎さん、元気がありませんね。」

あまり食べませんね。どうしましたか？」

太郎は言いました。

「乙姫さま、私は、もう、

うちへ帰ります。」

「えっ、どうしてですか？」

乙姫さまは言いました。

「うちに、母が一人ですから。」

太郎は言いました。

「そうですか。わかりました……。」

「じゃあ、これをどうぞ。」

乙姫さまは、

太郎に箱をあげました。

それは、とてもきれいな箱でした。

「ありがとうございます。」

太郎は箱をもらいました。



亀は竜宮城に帰りました。

「さようなら」

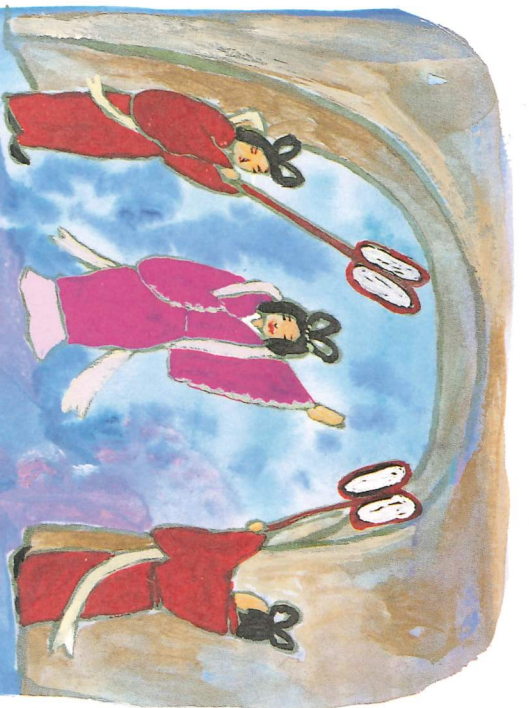
さようなら」

「亀さん、どうもありがとう。」

そして、言いました。

太郎は亀から降りました。

太郎のうちの近くです。



太郎は亀に乘りました。

「さようなら」

「乙姫さま、ありがとうございました。さようなら」



太郎は、うちの方へ行きました。

でも、うちがありません。

「あれ？ 私のうちがありません」

太郎は、近くの人に聞きました。

「私のうちがありません。私の母もいません。私のうちはどこですか。」

母はどこですか」

その人は言いました。

「わかりません。百年前、ここにうちがありました。でも、今はありません」

太郎は言いました。

「えっ、百年前？ ……私は百年も童宮城に……？」



太郎には、もう、うちがありません。お母さんもいません。

太郎には、もう、何ありません……

あつ、あります。一つだけあります。箱があります。

あのきれいな箱です。乙姫さまからもらいました。

——箱の中は何でしょう？——

太郎は箱を開けました。

「わーっ！」

煙です。

中から白い煙が出ました。

太郎は、もう、若くありません。白い髪のおじいさんです。



浦島太郎

文部省唱歌

わかし わかし うらし まは  
 た すけ た か めに つ れ ら れ て  
 りゆ うぐ う じよ うへ き て み れ ば  
 え ーに も か け な い う つ く し さ

- 1 わかし わかし 浦島は  
 助けた亀に 連れられて  
 竜宮城へ 来てみれば  
 絵にもかけない 美しさ
- 2 乙姫様の ごちそうに  
 鯛や比目魚の 舞踊  
 ただ珍しく おもしろく  
 月日の経つも 夢のうち
- 3 遊びにあきて 気がついて  
 お暇乞も そこそこに  
 帰る途中の 楽しみは  
 土産にもらった 玉手箱
- 4 帰ってみれば こは如何に  
 元居た家も 村もなく  
 路に行きあう 人々は  
 顔も知らない 者ばかり
- 5 心細さに 蓋とれば  
 あけて悔しき 玉手箱  
 中からぼつと 白煙  
 たちまち太郎は お爺さん

それから、太郎はどこへ行きましたか。  
 それは、だれもわかりません。

